

推進校別中間報告書

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
ふくやましりつかもちゅうがっこう 福山市立加茂中学校	広島県福山市加茂町下加茂 1190 番地	084 - 972 - 2065	296名	

2 研究課題

体験活動等を生かした多様な取組の工夫による道德教育の充実
規範意識を育てる道德教育の充実

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

「心に響き、心を動かす道德教育」

～自らの生き方を問い直し、集団の中で主体的に生きる生徒の育成～

(2) 設定理由

本校では、平成12年10月に起こした「生徒による体育館焼失」以来、学校再生に向けて「ルールを教え、規律を育てる」ことを大切にしながら全教職員で積極的に生徒指導に取り組み、学校も落ち着きを取り戻した。しかし、教師主導で学校再生を進めてきたこともあり、生徒一人ひとりの内面からの変革は十分とは言えない状況であった。

平成14、15年度の2年間、広島県道德教育実践研究指定校として「心に響く道德教育」を研究主題に、重点的に取り組むべき生活課題と道德の内容項目とを重ね合わせて、道德的価値及び人間としての生き方についての自覚を深める「道德の時間」の指導の工夫・改善に取り組んできた。

生活指導面からのスタートではあったが、これまでの研究・実践を通して、ひたむきに努力する生徒たちの姿や、興味・関心を持って意欲的に学習する姿も少しずつ見られるようになってきた。しかし、これからの本校生徒にとって、変化の激しい社会において、どんな状況下にあっても自分を見失わず、他人と協調しながら、自律した社会生活が送れるような心の育ち（道德的価値観の向上）が必要である。

- ・「指示があるから」「誰かに言われるから」といった他律的な判断で行動するのではなく、自己が学んできた規範意識に照らし合わせて自分で判断し主体的に行動しようとする生徒
- ・自らの課題を真摯に受け止め、基本的な生活習慣の習得だけで留まらず、生きること真剣になれる生徒
- ・自己中心的な考えだけにとらわれず、自分を大事に仲間も大事にでき、個と集団の中でのあり方を見つめ、共に高め合える人間関係づくりに努める生徒

こうした生徒を育成するためには、学校教育活動全体を通して生徒の心をしっかりと突き動かし揺さぶることが必要である。とりわけ、豊かな体験活動や「本物」との出会いなどを通して様々な感動や生き方、考え方に触れさせることは重要であり、「道德の時間」との関連を図りながら指導することで、より主体的に自己の生き方についての自覚を深めていくと考える。また、規律と温かさのある集団づくり活動を充実することで、仲間との人間関係が深まり、学校や社会の一員としての自覚も深まると考

える。

このように、様々な教育活動の中で生徒が持つ道徳的価値観（価値基準）を向上させていくことは、将来をしっかりと見つめ、目標に向かって積極的に努力する活力ある生徒を育てることができると考え、この主題を設定した。

4 第1年度の研究の特色及び概要

(1) 規範意識を育てる道徳資料の発掘及び作成

道徳副読本の活用

広島県実践資料集からの積極的活用

自作資料の作成

(2) 規範意識を育てる授業の工夫

規範意識を問うアンケートの活用（本校生徒と全国データとの比較など）

規範意識を問うような実物の提示（ルーズソックス、厚底ブーツなど）

ネームプレートを活用した意思表示

プロジェクターを活用した資料提示（パワーポイント、DVD映像など）

(3) 規範意識を育てるため学校教育活動（学校行事）との関連づけ（価値の明確化）

自分自身を考える（節度節制・強い意志・自主自律・理想の実現・個性伸長など）

・新入生合宿，学び方を学ぶ〔学習規律〕（1年行事・総合）

・進路説明会と先輩の話（2・3年行事）

・マラソン大会（行事）

・社会人からの話（全学年総合，PTC）

・卒業研究レポート（3年総合）

・1日の反省，授業反省，行事反省（短学活・学活）

他の人とのかかわりを考える（礼儀・思いやり・友情・謙虚な心など）

・あいさつ運動（生徒会，PTA）

・仲ともスピーチ（全学年学活）

・1日の反省，授業反省，行事反省（短学活・学活）

自然や崇高なもののかかわりを考える（自然愛護・生命尊重・弱さの克服など）

・学習旅行・社会見学，防災訓練（行事）

・地域清掃，花いっぱい運動，空き缶回収（生徒会）

集団や社会とのかかわりを考える

（集団生活の向上・遵法精神・公德心・正義・勤労・家族愛・郷土愛・人類愛など）

・体育大会，文化祭，学校朝会，各種儀式〔入学式，卒業式，壮行式など〕（行事）

・短学活交流，全校合唱，合唱コンクール，学区民運動会（行事）

・生徒総会，生徒会オリエンテーション，各種委員会活動，生徒会合宿（生徒会）

・集会活動〔生徒朝会，全校集会，学年集会〕（生徒会・学年委員会）

・警察による犯罪防止教室及び少年犯罪防止コンサートの実施（行事）

・保健委員会による「酒・たばこアンケート」及びアピール活動（生徒会）

・学習旅行，社会見学（行事）

・お年寄りを招く会，お年寄りからの聞き取り（1年総合）

- ・職場体験学習，家族からの聞き取り（２年総合）
 - ・ボランティア活動〔敬老会，福山市ヤングボランティア〕（希望者）
- (４) 規範意識を育てるための道徳的環境づくり
- 各学年掲示板に「道徳コーナー」を設置
- ・生徒の道徳授業の感想や意見を掲示する。（道徳的価値の深化・交流を図る）
 - ・道徳の補足資料を掲示する。
- 授業規律の徹底
- ・10ヶ条の学習規律を書いた掲示物を全教室と掲示板に掲示し意識化を図る。
 - ・生徒実態を見て，月目標として掲示する。
 - ・学活での振り返り
- 月目標への意識付け
- ・行事や生徒実態を考慮した月目標を設定し，全教室と掲示板に掲示し意識化を図る。
- ことばの教育（生徒の学校生活に）
- ・発達段階を考慮した各学年での「座右の銘」の取り組み
 - ・地域の人の「座右の銘」と中学生へのメッセージを掲示
 - ・「心のギャラリー」として，素敵なことばの入った絵葉書を拡大し掲示
 - ・書の掲示（心のノートより作成）
 - ・道徳ワークシートの掲示
- 例：「自分の大好きなことば」「自分の生き方(考え方)を変えたことば」など
- 読書活動の充実
- ・「朝の読書」から静かに1日をスタートする。（日程表の変更）
 - ・群読図書をクラス全員でローテーション読書（読書内容の共有化）
 - ・各学級にリサイクル図書(20冊)に加え，新たに「学級文庫」(約30冊)を設置
 - ・国語科による「加茂中学校指定図書30冊」の提示と読書推奨
- (５) 道徳教育活動への理解を深める取り組み
- 各種通信（学校便り・学年通信・学級通信など）
- 校内掲示（学校掲示板・学年掲示板）
- 学校ホームページ（道徳コーナー，生徒の意見や感想，各種通信などの紹介）

5 第1年度の研究成果及び課題

(１) 成果

各教育活動と規範意識との関連があることが，多くの教職員に意識された。道徳の時間において，資料探しや作成の段階から規範意識の育成を意識した。生徒への押しつけではなく，共に考えて大切にしていくものとして提示できた。生徒指導と緊密な関連が図れ，本校教育の流れと合致して自然に取り組んでいる。

基本的生活習慣

()内は，H15年度

項目	生徒	保護者	地域
服装・髪型をきちんとしている	92.8%(89.1%)	90.5%(91.8%)	83.7%(84.6%)
地域の人，先生，来客などに挨拶をしている	96.4%(91.4%)	83.7%(73.8%)	70.9%(73.8%)
掃除をきちんとしている	91.7%(91.4%)	90.5%(84.0%)	74.4%(61.5%)

- *参考:地域アンケートより 生徒は、登下校の時交通ルールをよく守っている 62.8%
- (分析)・服装、挨拶、掃除などの基本的な生活習慣がほぼできていると生徒は思っているが、地域や保護者からはまだまだ評価されていない。
- ・地域アンケートでは、生徒の「交通ルールを守る」についての評価も厳しい。
- (改善)・この結果を生徒に知らせ、課題意識をもって考えさせると共に、学校でもさらに指導していく必要がある。

肯定感 ()内は、H15年度

項 目	生 徒	保護者
加茂中学校の良いところが3つ以上あげられる	77.3%(53.0%)	- - - - -
学校で学んでいることは、自分のためになっている	88.8%(77.6%)	- - - - -

*参考;基礎基本生活アンケートから

項 目	加茂中	県平均	市平均
自分のよい所を言うことができます	54.4%	41.3%	41.7%
自分のよさは、周りの人から認められていると思います	49.5 %	40.1%	40.0 %
将来の役に立ちそうだから勉強しています	71.8 %	62.6%	60.4 %

- (分析)・県教教育委員会から、生徒指導を充実していくための3つの柱として、「自己肯定感の育成」「自律の育成」「自己責任の明確化」があげられており、自己肯定感を育てていくことが非行を防ぐ手だてにもなっている。

・調査では、「学校の良さがあげられる」「学んでいることが自分のためになる」と答えた生徒が増えている。また、基礎基本生活アンケートでも、市や県の平均を上回っている。

- (改善)・学校の教育活動や生徒会活動等に積極的に関わる生徒を育てていくことで学校の良さもあげられるようになる。この学校の良さを伝統として引き継いでいける生徒を育成していきたい。
- 道徳の時間だけにとらわれず、広く学校教育全般において規範意識を育てている。

(2) 課題

本校が考える規範意識の定義とその分析を明確化する必要がある。
各教育活動において、規範意識の視点に立ったねらいの明確化が必要である。
道徳の時間において、生徒の心を揺さぶるような授業づくりが必要である。

・発問や資料提示の工夫 ・資料の発掘と開発

自然に規範意識を育めるような体験活動を計画する必要がある。
道徳的環境づくりをより洗練し、新たな取り組みも行う。

6 参照できるホームページアドレス

加茂中学校HP <http://www.edu.city.fukuyama.hirosima.jp/chu-kamo/>